

《二》 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

著作権の都合により文章の掲載はできません

問一 傍線部①「いつにない異様な光景か」と思ったのは、なぜか。三十字以内で理由を書きなさい。

問二 傍線部②「時は『接続狂の時代』かも知れない」とあるが、「接続狂」とは、現代のどういう点を言っただけのものか。わかりやすく三十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部③「やや空恐ろしい思いにかられる」のはなぜか。八十字以上百字以内で理由を書きなさい。

問四 傍線部④「電子メディアに振りまわされずに、それらのいい面を生かす暮らし方をしよう」とあるが、その実現のために作者が提案していることは、どういうことか。七十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部⑤「現実の世界では、橋を架けるのは一苦労だ」と同じ内容を述べている一文を本文中から探し、最初の五字を書きなさい。

問六 ⑥と⑦には、漢字二字で同音の、異なる語が入る。本文中から最もふさわしい語を探して、それぞれ答えなさい。

問七 傍線部⑧「うそ寒さと、こつぱい味が、ないまぜになった時世だ」とは、現代のどういう点を言っただけのものか。次のイ～ホから最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

イ インターネットには、「匿名で別人格になれる」や「自分の気持ちを純粋に相手に伝えられる」という魅力がありながら、はまり込むと依存症に陥るおそれがある点。

ロ 週に1回の「ノーケータイデー」や「ノーインターネットデー」を設けながらも、会社の仕事などで必要なケータイやパソコンは対象とせず、緊急の時にソナえて、携帯する点。

ハ 何かとつながっていたいと願って橋を架ける人間だけでなく、内と外を区別し自分の空間を確保して扉を閉ざし、強い遮断感を与える人間もいる点。

ニ 自然は都会にあっても、木々の葉が精いっぱい色づき、大地への舞を見せているのに、その人恋しい晩秋を詠んだ芭蕉の作品の味は、すでに時を超えて過去のものとなっている点。

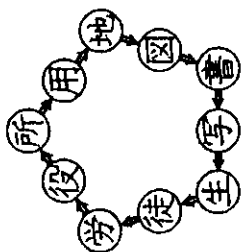
ホ 隣が何をする人かも知れないままに隣り合っただけ暮らし、何をする人かは知らなくとも、ケータイ・パソコンする人ぞ、と言え、外れることは少ない点。

問八 傍線部A～Eのカタカナを漢字に改めなさい。

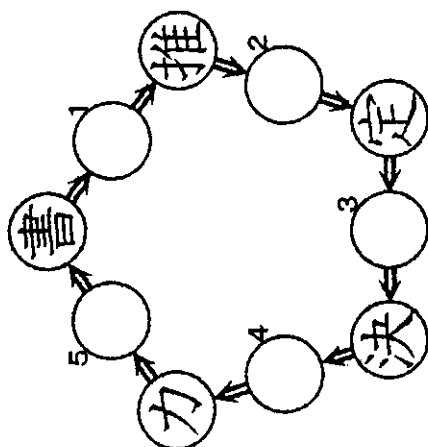
《五十点》

《二》 次の図の空欄1～5に適切な漢字を当てはめ、時計回りで読む熟語のしりとりを完成させなさい。

例(読み方)



…… 所用、用地、地図、図書、書写、写生、生徒、徒勞、勞役、役所



《十一点》

《三》 次の文章は、北海道の小さな町に住む少年の物語である。読んで後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

十一月の中頃には雪が降った。

雪が降ると、ふんわりとした白い布を上から掛けられたように、昨日まであった様々なものの色や形がまたたくまに姿を消した。十一月になると、白い雪は幾重にも積み重なって白さの厚みを増した。

① その日、雪は降っていなかった。曇り空で風はなかった。家の裏の広い畑のすつと先まで白い雪原は続いていた。そしてその上に、重しをするように灰色の空が広がっていた。

膝が埋まるほどの雪の上を、父は畑の方へ黙々と規則正しく深い足跡を付けながら、進んで行った。私と二人の弟たちは、大人の父が歩いた跡にできた大きな穴ほこに、自分の足を入れるのに必死になりながら後を追った。

父の右手には、両足を掴まれ逆さまになって暴れる鶏が、一羽ぶら下がっていた。手袋をはめた私の両手はおなかのあたりで、草のケースに入った重い鉋をしっかりと握っていた。

鶏は逆さまになっているせいで、羽根はさんばらになり、花びらが無秩序に開いた白い花のように見えた。

その花は自分が置かれた状況にベツと気がついたように、時折メチャクチャに翼を動かして叫び暴れた。そして疲れたのか、少しするとまた急に静かになった。それを何度か繰り返した。

私たちは父の後を追いつつながら気が重かった。年越しと正月の料理用に父は、あまり卵を生まなくなった鶏を一羽潰そうとして雪原に向かっていたのだった。

隣の家との境界線である枝だけになったタモの木の手前まで行くと、父はようやく歩くのをやめた。そして振り返り、早く来いと私たちを呼んだ。

白い息を吐き、ハアハアいいながらたどり着いた私の手から、父は鉋を受け取った。そして、ここから動くなよと言い残し、五、六歩前のほうへ歩いて行った。それからもう一度、私たちの方を振り返ると、「血が飛ぶかもしれないから、そこにいるんだぞ」と言った。

寒くもあり怖くもありで、寄り添って立っていた私たち三人は、② これから何が起るのか、知っているようで知らなかった。

父に鶏を潰すから見に来いと言われてついて来たけれど、そこでどんな風な儀式が行われるのかは想像できずにいた。それでも私たちはウンと小さく返事をした。すると一番下の弟が、何かとんでもないことが起る気配を察したのか私の防寒服の袖を掴みながら、そつと私の後ろに隠れた。

四、五メートル先で鉋は振り下ろされた。

夕方近くの冷たい空気の中で、それはあっさりと行われた。風は吹いていなかった。さっきまで同じだった密度の空気に、③ いきなり 力が立った。

あたりは静かだったが、声にならない不思議な音が、一瞬間こえたような気がした。

父が左手に握っていた鶏の体には、首がなかった。

代わりに首があったはずのところから、勢いよく血が赤い噴水のように吹き出していた。鶏は、凄まじい勢いで暴れた。父はその勢いにのまれたのか、掴んでいた鶏の体を放した。すると首がないのに鶏は翼をバタバタさせ血を撒き散らしながら、一瞬高く舞い上がってから、大きく半円を描いてねじれ、暴れながら雪の上に落ちた。

白い雪の上に、その支離滅裂な軌跡は血しぶきで描かれていた。何もかもが白い中で、その赤い色は鮮烈だった。

首のない鶏は狂ったようにもがき続け、落ちてからもしばらくは、④ コロコロ回って雪の上に赤い模様を広げた。

静かな静かな雪の原っぱで、暴れる翼の羽音だけが聞こえた。羽音は、声をなくした鶏のヒメイだった。

私はそこにいたけれど、⑤ あまりにも壮絶な出来事に出会って、自分が消えてしまったように感じていた。 まわりにも、誰もいないような気がした。私たちは木柱のように、緊張して声もなく立ち尽くしていた。

予想をはるかに超えた鶏の生命力の強さに、私たちは圧倒されて固まっていた。眼だけが動いて、首のない鶏の後を追っていた。鶏の動きがゆっくりになるにしたがつて、私たちの緊張もようやく解け始めた。父は足元の雪を掬うと、手に掛かった血を拭いた。

私たちは父の所まで、雪に足を取られるのと緊張とでギクシャクしながら歩いた。父が立っている所へ着くと、私たちは父の足元を見つめた。そこには切り落とされた赤いとさかが付いた鶏の小さな頭部が落ちていた。少し雪が付いた、白っぽく薄い臉は、眠っているように閉じられていた。

それから私たちは、少し離れた場所で、まだ時折羽根を動かしている鶏の体の所まで走った。冷たい空気の中で、首から流れ出ている血からは⑥ コゲ が立っていた。鶏はまだ体のどこかを動かしていた。まだ「動くこと」を、やめないうた。

私たちは鶏を、全く動かなくなるまで見続けた。⑤「スゲー」と思いつつ見続けた。

私は見たことはなかったけれど、漠然とながら、人間が首を切られたら、こんなに長く生きられないはずだと思った。

ゆっくりゆっくりと、動きが緩慢になった鶏を見下ろしていると、手や鉋を雪で拭き終わった父がやって来て、動かなくなった鶏の足を掴んで逆さに持ち上げ、何度も振って体の中の残りの血を出しきった。

それから死んだ鶏をぶら下げた父と私たち三人は、黙ったまますっかり薄暗くなった元の道を戻った。

⑥そのとき父の手からぶら下がった鶏は、もう「モノ」になっていた。

私たちはその夜、父が解体し母が調理したとり鍋の肉を、目をつぶって口に入れると、あまり嚼まずに急いで飲み込んだりした。飲み込むタイミングを失い、味のなくなった堅い肉がいつまでも口の中に残れば残るほど、鶏のことを思い出して吐きそうになった。

(坂川栄治『13のストーリーズ 遠別少年』所収「赤い雪」)

問一 傍線部①「その日」とは何のために何が行われる日のことが。本文中からそのことが分かる一文を探し、最初の五字を書きなさい。

問二 傍線部②「これから何が起るのか、知っているようで知らなかった」とはどういうことが。三十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部③「いきなり波が立った」とあるが、これはどういうことを表現しようとしているのが。次のイ～ホから最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

- イ 風が無かったところに突風がふきこんだことからくる動揺。
- ロ 真つ白な景色の中で急に赤い模様が広げられたことによる興奮。
- ハ 首を切られたとたんに鶏が暴れたしたことに対する困惑。
- ニ 目の前で一瞬のうちに鶏の首が切られたことによる衝撃。
- ホ 鶏の叫び声が前ぶれもなくひびきわたったことによる打撃。

問四 ④にあてはまる最もふさわしい表現を次のイ～ホから選び、符号を書きなさい。

- イ 遠くに耳をすました
- ロ いないも同然だった
- ハ ふるえが治まらなかった
- ニ とても見ていられなかった
- ホ 記憶は断片的だった

問五 傍線部⑤『「スゲー」と思いつつ見続けた」とあるが、このときの「私」の心情を三十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑥「そのとき父の手からぶら下がった鶏は、もう『モノ』になっていた」とあるが、これは何がどうなったということか。経過をふまえて説明しなさい。

問七 「私」がこの経験を通じて感じたことの説明として、次のイ～ホから最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

- イ 飼っていた鶏を殺した父は、逆らうことのできない強さを持った人であると実感した。
- ロ 目的も無いのに生き物を殺すことは、決して許してはいけないことなのだと実感した。
- ハ なにげない生活の裏には、道に外れた行いがかくされているということを実感した。
- ニ 生存競争に負けたものはほろびて行くしかないという、自然界の厳しさを実感した。
- ホ ふだん食べているものは、生き物の命をうばって得ているのだということを実感した。

問八 傍線部A～Eのカタカナを漢字に改めなさい。